



# 日本キリスト教会信徒大会

ニュースレター NO.5 www.nikki.asia 又は 日本キリスト教会 HP から 2015年6月1日  
信徒大会実行委員会発行 発行責任者 実行委員長 田部 郁彦

## 1. 信徒大会に期待する思い

「神を信頼して冒険に乗り出そう」

野木 虔一(無任所教師・神奈川県在住)



半世紀前の「全国信徒大会」は、上り坂の途上で開かれた。参加した者の声を、と求められて当時の生意気な神学生は「反教団ではなく、もっと日きの固有性を鮮明に」という感想を福音時報に寄せた。今、自分自身がそのことを改めて問われているように思われる。時は経過し、今回の信徒大会は下り坂にさしかかった時期に開かれる。現在の状況は「攻めの姿勢」が「守りの姿勢」に転じつつある時期でもあろう。このような時だからこそ、教会全体にとってこの信徒大会の開かれる意味は大きいと思う。

下り坂で、「守る姿勢」が保身のみに終始すれば、教会の宣教の動きの新しい展開は生まれてこない。現状を変えようとする戦いは、自分を変える戦いでもある。自分自身の存在を変えることなく、守勢が攻勢に変わるはずはない。自己を変える痛みを伴わない変革は、たとえ真実そうに見えても、それは信頼するに足りないであろう。信頼して生きることは一つの冒険でもある。時の流れに抗して生きるには、神への信頼の冒険が求められている。

今、わたしたちは福音の喜びを聞きつつ、どれだけその福音に応答しているであろうか。わたしたちは、この信徒大会を「主にある喜び」をもって始めたい。「主がわたしたちを愛し、わたしたちのためにその身を献げてくださった」という事実感謝し、「キリストに属する者」とされていることに深い喜びを覚えたい。そして、神が喜びたもうことが何であるかを聞き取り、それに向けて自らを献げて歩む群れとされ、自分の置かれた場所に勇んで立ち戻りたい。主にある喜びは、感謝の祈りとなり、愛の行為として働き、「下り」を「上り」に転換させる力ともなり得るであろう。その喜びと感謝の中から主と教会のために身を献げる伝道者が生まれてくることを切望してやまない。

「“青年の集い”への最後の呼びかけ」

小林 宏和(北田辺教会牧師)



「青年の集い」の情報は、ニュースレターNo4 と、青年向けのニュースレターNo2 に掲載されているとおりで、それら全ては、信徒大会のサイト www.nikki.asia に PDF の形でアップロードされています。www.nikki.asia は、利用環境に依存することなく閲覧出来るよう作成してありますから、まずは手持ちの機器で閲覧してみてください。

ニュースレターを閲覧すると、「青年の集い」の内容について、具体的なことは決まっていないことがわかるでしょう。つまり暫定的(provisional)なわけです。しかし暫定的とは先見(Pro-visio)を含んでいます。未だない現実に関して不平をつぶやくのではなく、中間の時に何を成すべきかが、問われているのです。ニュースレターとサイトの閲覧後、2つの行動が期待されています。一つは、信徒大会へ申し込むこと、一つは単なる閲覧者ではなく、編集者あるいは提案者になることです。サイトそのものも、提案者を求めています。例えば、www.nikki.asia には開催地の情報が掲載されていますが、現時点ではかなり恣意的です。充実させる必要があるでしょう。「PRビデオ」は、内容的には充実しているものの、昭和の香りする動画です。ビデオの大胆な改変も望まれています。「青年の集い」の方向性についての対話も必要でしょう。信徒大会のサイトは virtual なものですが、潜在的なもの(das Virtuelle)こそが実在(Realität)を作り出していきます。仮想と現実とをつなぐ、一人一人の積極的な動きが求められています。

個人的には、「青年の集い」における対話の一つの例として、「剣を鋤に打ち直す」という終末の VISON の今日的な意義というようなテーマに興味を持っています。いずれにせよ、この集いの現実化はあなたの幻にかかっています。この最後の呼びかけが、あなたの最初の行動につながるよう、願います。

「あなたが証人のお一人です」

浅田 忠敬(信徒大会実務委員・豊中中央教会長老)



信徒大会の参加申込期限が迫ってまいりました。今回の信徒大会で目指していること、それは、ご案内のプログラムに示されていますように、(1)まず、「記念礼拝」において、大会議長より喜びの福音のメッセージをいただき、信仰の一致を確かめ合い、(2)次に、DVDにより「日本キリスト教会の歩み」を振り返り、最初に志したものを今一度思い起こし、使命を再確認すること。(3)そして、「記念講演」を通じ、私達の教会がこの地に建てられ、集められている意義を再確認し、再び宣教に仕える力を与えられること。(4)さらに、この機会に、引退された先生方との「交わりの時」と、若い信徒代表者の讃美の歌に心を合わせ、全員で主の御名を「讃美する時」を持つことです。また、別途ご案内のように、本プログラムに並行して、「子どもの集い」を持ち、事前に「青年の集い」を計画しており、いずれも、本信徒大会以降に、次の世代が信仰の仲間となっていくことを視野にいれた夢のある企画として準備しています。

さて、今回の会場・大阪国際交流センターは、候補となった有馬温泉など15の施設の中から各種条件を総合して選ばれました。今集会では、会場の特徴を生かし、特に「分科会・夕食会」に、小グループ(10~14名)のテーブルを多数(約50組)用意し、世代を超え、思い出に残る交わりの時を持てる様に準備しています。さらに、分科会の後に持たれる自由参加の「テーマ別懇談会」においても、今後の宣教のため共に考え、祈り合える機会になることを意図しています。まだ、参加を迷っているあなたも、今参加を決断され、信徒大会の証人のお一人になってください。実務委員会一同お待ちしております。

「見よ、兄弟が共に座っている。なんという恵み、なんという喜び。」(詩篇 133:1)

## 2. 信徒大会ホームページの活用



閲覧のしかた

- www.nikki.asia にアクセスする or
- 日本キリスト教会ホームページで
- “信徒大会”のボタンを押す

コンテンツ

- 各イベントの最新内容紹介
- 準備の進捗状況(RECENT POSTS)

コミュニケーション

- 各コンテンツに対して質問や意見が書き込めます(ブログ的)。

活用方法

- ニュースレターに表現しきれない最新の情報を迅速に入手できます。
- コミュニケーション機能を使って情報の深堀りや、皆で情報交換できます。

ホームページを活用し、先行して“交わり”をスタートしましょう。

## 3. 実務委員会から

- ・6月末の締め切りが近づいています。お早目に対応して下さい。
    - 参加申込、及び参加費の送金
    - テーマ別懇談会のテーマ応募(現在2件)
  - ・次回ニュースレター(No.6)において、申込状況、展示内容、テーマ別懇談会内容を詳しく報告いたします。
- 8月1日発行予定。